

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	林 秀樹	(****年**月**日)
本籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(臨床心理学)	
学位授与番号	甲第151号	
学位授与日付	平成30年3月14日	
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当	
論文題目	非定型うつ病傾向者の自我機能および防衛機制に関する研究	
審査委員	教授 福岡 欣治	教授 保野 孝弘
	教授 岩淵 千明	

博士論文内容の要旨

本論文は、非定型うつ病傾向者の心理機序を精神分析の観点から実証的に検討したものである。

本論文は3部構成である。まず第1部では「非定型うつ病」それ自体について概観している。論文データベースにおけるキーワードの推移から研究動向を確認し、また精神分析の観点から「自我機能」「親子関係」「防衛機制」の3側面に注目してどのような理解が可能かを述べている。第2部は3つの実証研究からなる。まず専門家への面接によって前記3点に対する理解の現状を示し、自我機能と防衛機制について心理機序に関する明瞭な仮説が見出せることを示している。その後、青年期の健常者を対象とした2つの実証研究によって、非定型うつ病傾向者の自我機能と防衛機制の特徴を描いている。最後の第3部は総合考察であり、研究知見をまとめた上で、非定型うつ病傾向者への心理的支援について、自我支持的介入の有用性を示唆している。また、研究の限界と今後の展望にも言及している。

博士論文審査結果の要旨

初回予備審査会および論文発表会でのプレゼンテーションと質疑、そして提出された論文をもとに、博士(臨床心理学)に値するかを3名の審査員により慎重に検討した結果、全員一致で合格と判断した。ただし、論文が主張する範囲を明確にする方向での修正提案等がなされ、加筆後の論文が改めて審査委員会に提出された。

本論文は、非定型うつ病傾向者の状態像に対する理論的かつ実証的研究であり、精神分析の概念を操作的に定義した心理尺度を用いた調査データを分析している。自我機能と防衛機制に着目することで具体的な支援方法の可能性にも言及しており、学術的のみならず実践的な貢献の可能性を認めることができる。非定型うつ病は近年いわゆる“新型うつ”の一部とされ一般にも注目されているが、精神分析の観点からの実証研究には高いオリジナリティがあり、今後の発展が期待される。

以上より、審査委員会は本論文を博士(臨床心理学)の学位授与に相応しいものと認め、合格とする。